



寄贈：孫文の書について

当館では、日本に残されている孫文親筆の書を収集してきました。今年に入って、北村康男および伊藤公芳両氏の御厚意により、新たに2点の書が寄贈されました。いずれも「博愛」が書かれ、掛け軸と扁額形式のものでした。

新潟在住の北村氏は家族の言い伝えとして、同書について以下のように語ってくれました。すなわち、氏の祖母にあたる方は生前、高橋是清（1854～1936）家で奉公したことがあった。離職の際、高橋氏からこの書をいただいたというものです。しかし、高橋氏や北村氏の周囲にはこの書の受贈者である「卜部」という人物に関する情報が不足しているため、この書の由来について、さらなる調査が必要です。

また、静岡県磐田市在住の伊藤公芳氏による寄贈品に関しては、同氏の祖父に当たる伊藤八太郎（1885～1919）氏は、生前に皇宮警手や海軍二等水兵として務めていました。孫文との接点を示す資料は不詳ですが、おそらく皇宮警手時代にその書が贈られたものと推測されます。孫文は横浜（1897～1903年、1905～06年）や東京（1913～16年）で亡命生活を送った際、日本の警察とは少なからず接点がありましたが、皇宮警手を務めていた伊藤八太郎氏と孫文との接点がいかなるかは今後の調査に待ちたいところです。

一般的に、書は書風・表装・由来などの要素から鑑定が行われます。現段階では、この2点の寄贈品に関する従来の経緯には不明な点があり、書風についても精査の必要があると判断されています。今後、更なる研究調査を加えて確実な鑑定報告を提出する予定です。これらの寄贈品には、検討の余地が残されていますが、当館の新収蔵品として慎

重に保管され、原本の修復および複製が既に行われています。

現在、当館では新収蔵品を含め7点の孫文親筆の書が所蔵されています。現存する約160点の孫文の書は世界各地に散在しており、最も多く収集しているのが中国国家博物館です（およそ20点）。当館は、上海孫中山故居記念館や広東省中山市孫中山故居記念館に次いで、多くのコレクションを有しています。孫文は書家ではないものの、彼の書跡は中国では高く評価されています。今後、近代革命史のみならず、日中文化に共有する書道の側面からも、当館所蔵の孫文書跡の評価を日本国内外で高めていくことが期待されます。

（主任研究員 蔣海波 研究員 漆麟）



北村氏寄贈の書「博愛」



伊藤氏寄贈の書「博愛」

目次

寄贈：孫文の書について……………(1)	公益財団法人孫中山記念会理事会・評議員会報告……………(3)
台湾「陳守仁孫学研究センター」	公益財団法人孫中山記念会役員表……………(3)
学術交流研究会開催……………(2)	訂正……………(3)
第34回孫中山宋慶齡紀念地聯席会議北京で開催……………(2)	移情閣友の会通信……………(4)
『孫文と神戸を歩こう』刊行について……………(2)	訃報……………(4)
記念館ニュース……………(3)	編集後記……………(4)
孫文研究会通信……………(3)	

孫文研究会・台湾「陳守仁孫学研究センター」 学術交流研究会開催

2023年8月2日（水）、孫文記念館（移情閣）一階ホールにて、孫文研究会の夏季特別例会として、台湾陳守仁孫学研究センターとの共催学術交流研究会が行われた。台湾側は、林志龍(陳守仁孫学研究センター副研究員)「1949年後臺灣地區孫中山相關研究概況——書目計量學方法」、謝嘉文(同助理研究員)「從台灣看神戶孫文紀念館」ならびに「孫中山與澗澤榮一論「民可使由之，不可使知之」」、許世宗(同副研究員)「近代日本富強對孫中山海洋觀念與海軍發展之影響」、游正鈿(同助理研究員)「孫中山民生經濟思想之研究——以湄公河流域為例」など、4名による研究発表をなされた。孫文記念館からは、陳來幸副館長、安井三吉名誉館長、川鍋彰事務局長をはじめ、7名が会場で出席した。オンラインによる出席者を合わせて約20名が研究会に参加し、報告を拝聴し、大いに啓発された。また、コメントを担当された安井名誉館長からは、上記報告に対して的確で、示唆に富んだコメントと質疑が加えられ、参会者の理解はいっそう深められた。

同研究センターはもともと台湾に所在する中国文化大学の教授邵宗海氏が創設した「孫学研究センター」を母体とした研究団体であった。2016年、それが台湾の実業家、聯泰國際集團創設者兼主席の陳守仁が創設した「中華民國兩岸關係發展協會」内に設置され、現在の名称に変更された。同研究センターは、孫文に関する研究や台湾海峡兩岸の学術交流活動などを行い、それに関連する研究助成や出版事業も行っている。

孫文記念館および孫文研究会にとって、今回のような海外の研究団体との学術交流活動は有意義な試みである。当日、準備や広報が不十分なため、多くの参加者が得られなかったことが今回の反省点である。今後、それらを改善しこれからの活動に生かしていきたい。

(主任研究員 蔣海波)



台湾「陳守仁孫学研究センター」一行來館

第34回孫中山宋慶齡紀念地聯席會議北京で開催 当館最新展示品出展

2023年5月28日から30日にかけて、第34回孫中山宋慶齡紀念地聯席會議は北京の国家名誉主席宋慶齡故居管理中心の主催で開催された。中国をはじめ、世界各地にある孫文

関連の記念施設や団体の代表が集まり、展示や記念活動について交流が行われた。今回の会議は4年ぶりの対面開催で、筆者を含め百人を超える参加者が三日間の日程に出席した。

会議の開催に先立って、宋慶齡故居紀念館の展示がリニューアルされるため、その開幕セレモニーが行われた。また、会議期間中とその後の当面の間、特別展「孫中山宋慶齡紀念地文物珍品展」が開催される。当館より、近年寄贈を受けた孫文の揮毫二点「山本先生属 世界大同孫文」と「博愛 卜部先生 孫文」（いずれも複製）を提供している。初日の全体会議では、筆者が「神戸孫文記念館近年来的活動」と題する報告を行い、2019年秋に開催された特別展「ジャーナリスト太田宇之助が見た中国と孫文」および講演会、コロナ禍のなかで2021年秋に開催された特別展「病魔と闘う孫逸仙医師」や、2022年に行われたシリーズ講演「ひょうごの人々と近代日中交流の源流」などを紹介した。

会議期間中、中国國務院僑務弁公室発行の『中国新聞』紙は「同舟紀事」欄において、特集「孫宋足跡」を組み、世界各地の記念施設を紹介した。会議当日の29日に、「神戸孫文記念館：日本唯一一処紀念孫中山の公共施設」と題し、当館が紹介された。

(主任研究員 蔣海波)

本館紹介文

『孫文と神戸を歩こう』刊行について

冊子『孫文と神戸を歩こう』は、2024年の孫文「大アジア主義講演」100周年記念ならびに孫文記念館開館40周年記念事業の一環として孫文記念館より刊行された。当館安井三吉名誉館長監修のもと、編集にあたっては移情閣友の会の皆様に協力をいただいた。孫文・神戸・華僑に関する資料や地図を盛り込んだ内容が充実した冊子で、当館および一部書店にて300円で販売中。また、同冊子は7月27日の『神戸新聞』朝刊に紹介された。

(研究員 漆麟)



『孫文と神戸を歩こう』表紙

記念館ニュース〈2023年4月～9月〉

- ・4月20日 北村康男氏より孫文の書を受贈。
- ・6月16日 伊藤公芳氏より孫文の書を受贈。
- ・7月15日 神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部中国語コース学外研修で記念館を見学。
- ・8月2日 台湾「陳守仁孫学研究センター」学術交流研究会
- ・記念館新ホームページが完成。
<https://www.sonbunkinenkan.com/>

孫文研究会通信

*2023年度(4～9月)活動

- ・孫文研究会夏季特別例会：8月2日(水)台湾「陳守仁孫学研究センター」学術交流研究会開催
(発表者・題目は本誌2頁の研究会紹介を参照)
- ・『孫文研究』第72号発行(2023年7月)

*2023年度(10月～3月)活動予定

- ・梁啓超生誕150周年記念学術シンポジウム「梁啓超と近代知の諸相」：11月25日(土)
- ・『孫文研究』第73号発行(2023年12月予定)
(孫文研究会代表理事：緒形康)

公益財団法人孫中山記念会理事会・
評議員会報告

・令和5年度第1回理事会(令和5年5月26日 中華会館)

- 議案：1. 令和4年度事業報告について
2. 令和4年度財務諸表について
- 報告事項：

1. 令和5年度事業計画について
2. 令和5年度収支予算について

以上について、説明の後すべて承認されました。

・令和5年度第1回評議員会(令和5年6月30日 中華会館)

- 議案：1. 令和4年度事業報告について
2. 令和4年度財務諸表について
3. 理事の選任について
4. 評議員の選任について
- 報告事項：

1. 令和5年度事業計画について
2. 令和5年度収支予算について

以上について、説明の後すべて承認されました。

(孫中山記念会事務局長：川鍋彰男)

公益財団法人孫中山記念会役員表

2023(令和5)年10月1日現在、順不同

・理事長

中尾 一彦 前神戸土地建物株式会社代表取締役会長

・副理事長

魚住 和晃 神戸大学名誉教授
陳 來幸 ノートルダム清心女子大学教授

・常務理事

川鍋 彰男 公益財団法人孫中山記念会事務局長

・理事

横川 太 兵庫県国際交流協会専務理事
植村 武雄 神戸日華実業協会会長
片山 啓 元特定非営利活動法人アジア経済知識交流会常務理事
北村 智顕 兵庫県まちづくり部参事兼公園緑地課長
黄 磷 神戸大学大学院経営学研究科教授
垣内 正雄 神戸市市長室国際部長
陳 光輝 神戸大学大学院国際協力研究科教授
河内 信哉 川崎重工業株式会社総務部長
安井 三吉 神戸大学名誉教授
林 同福 神戸中華同文学校名誉理事長

・評議員

今井 晋生 兵庫トヨタ自動車株式会社専務取締役
伊藤 裕文 (公財)兵庫県園芸・公園協会理事長
石川 禎浩 京都大学人文科学研究所教授
王 柯 神戸大学名誉教授
緒形 康 神戸大学大学院人文学研究科教授
梶谷 懐 神戸大学大学院経済学研究科教授
河上 哲也 (株)三井住友銀行公共・金融法人部(神戸)部長
大溝 貴史 (株)神戸製鋼所総務・CSR部担当役員補佐兼大阪支社長
不破 恵子 (公財)神戸国際コミュニティセンター専務理事
澁 沛綸 日本中華総商會理事
陳 明德 神戸華僑總會理事
大久保和代 兵庫県神戸県民センター長
鮑 悦初 (株)廣記商行取締役会長
小林 拓哉 兵庫県産業労働部次長兼国際局長
後藤みなみ 移情閣友の会企画運営委員長

・監事

辻 美代 流通科学大学経済学部教授
文 曉謙 (一社)中華会館事務局長

当館会報No.30(2023年3月)に誤った記述がありました。
訂正して関係者にお詫びを申し上げます。

3頁 右 記念館ニュース欄 写真キャプション

誤「2023年2月28日、愛知学院大学菊池一隆先生ゼミ一行来館」

正「2023年2月28日、愛知学院大学広中一成先生ゼミ一行来館」

移情閣友の会通信

*行事等報告(2023年4月~9月)

・総会・特別講演会・懇親会 6月25日(日)

2023年度友の会総会は6月25日(日)14時より孫文記念館ホールにて開催され、38名が出席、すべての議案が原案通り承認されました。引き続き開催された「日中台の最新事情と今後の展望」と題する講演会への参加者は40名にものぼり、講演者には東京からジャーナリスト・作家・大東文化大学教授野嶋剛氏を招いた。懇親会は会場を移し、Tio舞子7階海彩園にて、33名が参加し、久々の会員間の親睦と交流を楽しみました。



野嶋先生講演の様子



安井先生とフィールドワーク参加者たち、孫文「大アジア主義」講演の地にて

・『孫文と神戸を歩こう』刊行

昨年度より編集に協力してきた『孫文と神戸を歩こう』が刊行された。孫文・華僑・神戸に関連する資料が盛り込まれて内容が充実した冊子に仕上がりました。小冊子は孫文記念館および一部書店にて300円で販売中。是非とも多くの方々に読んでいただきたいと思っています。

・移情閣コンサートシリーズ開催

今年度の秋から移情閣1階のホールでコンサートを定期的に開催することになりました。7月30日にプレコンサート(鳴尾牧子さんの二胡と尾碇江利子さんのキーボード)を実施し、32名の参加者でした。続きまして、9月2日にウー・ファン(伍芳)さんの古箏演奏会が開催され、参加した皆様はコンサートを楽しみ、会は大いに盛り上がりました。

・中国文化同好会例会

7月16日(日)張述洲(神戸中華同文学校名誉校長)
「日中平和友好条約締結45周年、神戸市・天津市友好

都市提携50周年」記念<神戸在住34年間の文化交流生活体験談> 参加者:36名

9月17日(日)藤田佳久(愛知大学名誉教授)

「中国・東南アジアを踏査した東亞同文書院・神戸商高校の生徒たちの足跡と記録」 参加者:28名

・会員親睦活動等

午餐会・講演会 神戸日華実業協会・中華総商会共催

5月10日、7月5日、9月6日(水)於第一楼/神仙閣

関帝廟普度勝会見学・精進料理を楽しむ会

8月25日(金)於関帝廟

<今後の予定>

・移情閣まつり2023...10月8日(日) 13:00-16:00

「中国文化と音楽を楽しもう」

移情閣友の会会員・同好会による発表

コーラス・民族楽器演奏・詩吟・中国語朗読等

公開文化講座:「司馬遼太郎街道をゆく⑩台湾紀行

一生誕100年によせて」橋 雄三

公開文化講座:「水墨の『現代』について」

漆麟(孫文記念館研究員)

・『孫文と神戸を歩こう』フィールドワーク...11月12日(日)

10:00-12:30

集合場所:兵庫県立のじぎく会館

講話:「孫文と神戸」

講師:蔣海波(孫文記念館主任研究員)

・陳瞬臣生誕100周年記念行事

シリーズ談話「陳瞬臣一人と作品」14:00-16:00

参加無料

①11月11日(土) ②12月9日(土)

会場:神戸華僑歴史博物館10階会議室

③2024年1月13日(土)

会場:孫文記念館(要入場料)

(移情閣友の会企画運営委員長:後藤みなみ)

訃報

・藤井昇三氏(電気通信大学名誉教授)は2023年8月15日に逝去されました。享年95歳でした。同氏は孫中山記念会の学術会員を務められました。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

2023年4月より、孫文記念館研究員として着任し、村田氏より仕事を引き継いで初めての『館報』編集でした。

これまでの『館報』を通覧し、記念館の歩みを理解すると共に、それが当館からみる日中台関係を興味深く物語っていることも知りました。本誌は小さな出版物ですが、年月が経てば経つほど、いかに大事な歴史資料となるかを痛感しました。これからは本誌の編集発行を円滑に行うよう努めてまいります。ご協力よろしくお祈りいたします。

(Q.L)

孫文記念館館報 『孫文』

第31号 (2023年10月1日発行)

発行者 公益財団法人 孫中山記念会

〒655-0047 兵庫県神戸市垂水区東舞子町2051

Tel: 078-783-7172 Fax: 078-785-3440

e-mail: sunwen20@aiores.ocn.ne.jp

URL: https://www.sonbunkinenkan.com

(題字は孫文記念館所蔵の孫文自筆の書より。ただしオリジナルは縦書き)